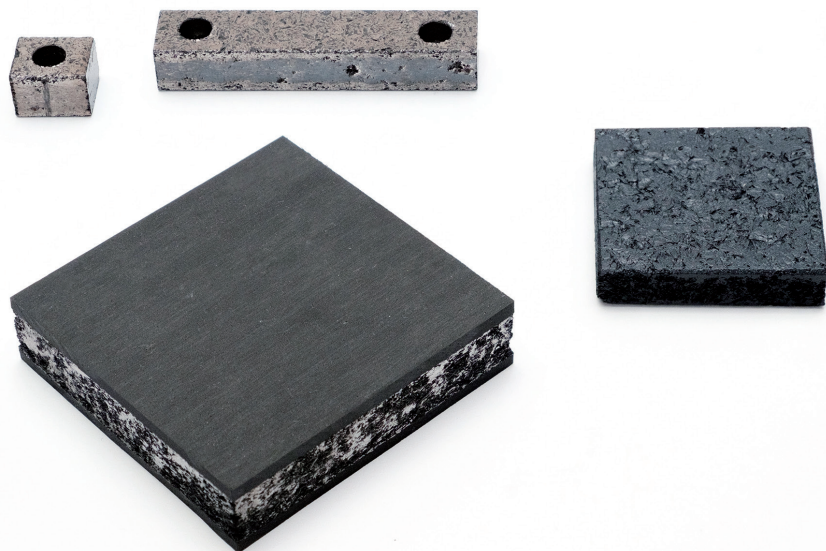


振動・騒音に悩む企業の 駆け込み寺



企画力
自信有
オンリー
ワン技術
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット
量産
対応

RASK (ラスク) の振動吸収材

業務内

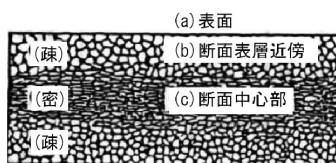
独自開発の多孔質金属

自社開発の多孔質金属「RASK (ラスク)」をコア技術に応用製品とサービスを提供する。RASKは金属ながらゴムのように振動を減衰できる素材。昭和50年代に遮音、吸音性能が注目を集め、音響材料として全国のコンサートホールで採用されたほか、昭和60年代には新幹線の騒音対策にも使われた。近年は機械設備の機能改善やコストダウンにつながる振動対策製品としてアピールを強め、振動対策の総合コンサルティングを軸に製品を展開している。

強み

総合的な振動対策を提案

RASKは粗い粒子の層で細かい粒子の層を挟み込んだ3層構造の鉄。ゴムバネでは取れない1Hz (ヘルツ) 以下の低周波振動も抑えられる。1cmあたりの耐荷重は1t。床に伝わる振動だけでなく、機械設備そのものの振動も取ることができる。工場の床の打ち直しも不要だ。現在は売上高の80%を半導体や液晶の製造装置、工作機械などの振動対策が占めており、ゴムバネで要求を満たせなかった機械ユーザーに、経営にメリットの出る総合的な振動対策を提案している。「さまざまな案件を手がけてきたノウハウがある」と権谷雄一郎社長は胸を張る。



RASKの断面図

技術戦略

中核技術を守り、 応用展開

RASKの性能は大阪府立産業技術研究所や大阪市立大学で評価試験を受けている。こうした技術的裏付けのもと、振動対策用途以外でも電磁波ノイズを除去する通信用のノイズフィルターを製品化。水も通す多孔質構造を光の拡散材として利用し、プロジェクターの映像を背面からクリアに映し出す透過型スクリーンなども開発している。すべての製品の柱になるRASKだが、「ベースの特許に重なる形でオンラインワン技術として長期間保有できるようにしている」と、権谷社長は技術を大切に守っている。

今後の展望

知名度を高めて 成長軌道に

「売上高は伸びている」と権谷社長は自社の成長に自信を見せる。今後は先代社長でRASKを開発した父、権谷克己氏のアイデアをブラッシュアップし、応用技術の開発に取り組みという。克己氏のノウハウは半分程度マニュアル化できているが、残りは形のない、見えない部分。「時間が経たなくても現場で受け継いでいきたい」と決意する。さらに振動対策技術のカテゴリを細分化してユーザーがアプローチしやすいように間口を拡大。展示会などへの出展を通じて知名度向上を図り、成長を軌道に乗せる青写真を描く。「今までのスタンスを守りながら、信頼できる騒音・振動対策のドクターを目指す」と力を込める。

COMPANY PROFILE

有限会社スイサク

大阪
27

当社の 歴史

昭和54年、前身の「日本ラスク」を設立。平成7年に「スイサク」を設立して「日本ラスク」の事業を継承しました。コンサートホール、新幹線やリニアモーターカー実験線など、さまざまな場所で自社開発の多孔質金属「RASK (ラスク)」が使われており、多くの受注実績が評価の証ととらえています。

他社では解決できない工場・機械・環境の振動・騒音問題に対応できる技術とノウハウ、対応力を持っています。

代表取締役 かいたに 権谷 雄一郎さん



■主な事業内容

自社開発素材RASK
振動騒音対策事業、応用
技術製品の製造・販売

■主な取引先 (納入先)

工作機械メーカー、
機械部品商社、
段ボールメーカーなど

住 所 / 〒587-0065
堺市美原区小寺
21-1
TEL / 072-363-3056
FAX / 072-363-3015
創 業 / 昭和54年
設 立 / 平成7年8月
資本金 / 300万円
従業員 / 4名

<http://www.suisaku.co.jp/>